

# IS06 法人向け機能ご利用ガイド

## グローバルパスポート CDMAを利用する

### 海外で安心してご利用いただくために

- 海外での通信ネットワーク状況はauホームページでご案内しています。渡航前に必ずご確認ください。  
<http://www.au.kddi.com/service/kokusai/tokomae/>

### IS06を盗難・紛失したら

- 海外でIS06を盗難・紛失された場合は、弊社お問い合わせ先まで速やかにご連絡いただき、通話停止の手続きをおとりください。盗難・紛失されたあとに発生した通話料・パケット通信料もお客様の負担になりますのでご注意ください。
- IS06に挿入されているau ICカードを盗難・紛失された場合、第三者によって他の携帯電話(海外の携帯電話を含む)に挿入され、不正利用される可能性がありますので、UIM PINコードの変更とUIMカードのロックをおすすめします。(▶「取扱説明書」第3版P.228「UIMカードロック設定」)

### 海外での通話・通信のしくみを知って、正しく利用しましょう

- ご利用料金は国・地域によって異なります。
- 海外における通話料・パケット通信料は、国内の各種割引サービス・パケット通信料定額/割引サービスの対象となりません。
- 海外では、着信した場合でも通話料がかかります。

### エリアを設定する

- **[メニュー]** ▶ **[設定]** ▶ **[システム]**  
▶ **[無線とネットワーク]** ▶ **[モバイルネットワーク]** ▶ **[ローミング設定]** ▶ **[エリア設定]**  
▶ **[ローミング(海外)]** ▶ **[OK]**

- 渡航先に着いたら、IS06を使用するエリアを設定します。
- [ローミング(海外)]に設定すると、滞在国選択画面が表示される場合があります。滞在国を選択してください。

### データローミングを設定する

- 渡航先(ローミング中)で、パケット通信を利用できるように設定します。

- **[メニュー]** ▶ **[設定]** ▶ **[システム]**  
▶ **[無線とネットワーク]** ▶ **[モバイルネットワーク]** ▶ **[データローミング]**に **[✓]**(チェック)  
▶ **[OK]**

- データローミングを有効にするには、あらかじめ[エリア設定]を[ローミング(海外)]に設定してください。

### 渡航先で電話をかける

#### 渡航先から国外(日本を含む)へ電話をかける

- **[✓]** ▶ **渡航先の国際アクセス番号を入力**<sup>\*1</sup>  
▶ **相手の国番号を入力** ▶ **相手の市外局番と電話番号を入力**<sup>\*2</sup> ▶ **[発信]**

※1:「0」をロングタッチすると、「+」が入力され、発信時に渡航先の国際アクセス番号が自動で付加されます。

※2:「市外局番が「0」で始まる場合は、「0」を除いて入力します。ただし、イタリアなど一部の国・地域では「0」が必要です。

- 国・地域によっては、**[✓]**(発信)をタップした時点から通話料がかかる場合があります。
- ローミング中は、ステータスバーに **[△]**が表示されます。
- ローミング中には、ソフトウェアアップデートを利用できません。

### 海外利用に関する設定を行う

- 海外でIS06を利用するには、渡航先で接続する通信事業者のネットワークに切り替える必要があります。
- 海外渡航前に、最新のPRL(ローミングエリア情報)を取得してからお使いください。

### PRLを取得する

- **[メニュー]** ▶ **[設定]** ▶ **[システム]**  
▶ **[無線とネットワーク]** ▶ **[モバイルネットワーク]** ▶ **[ローミング設定]** ▶ **[PRL設定]**  
▶ **[PRLバージョンを更新する]**

- PRL(ローミングエリア情報)とは、KDDI(au)と国際ローミング契約を締結している海外提携事業者のエリアに関する情報です。
- 古いPRLデータのまま利用し続けていると、海外のエリアによっては通信ができなくなる場合がありますので、海外渡航前に、最新のPRLデータを画面の指示に従ってダウンロードしてください。
- PRLデータをダウンロードする場合は、別途パケット通信料がかかります。

- 電話をかける相手がグローバルパスポート利用者の場合は、相手の渡航先にかかわらず相手の国番号として「81」(日本)を入力します。

### 渡航先の国内へ電話をかける

- **[✓]** ▶ **相手の市外局番と電話番号を入力**  
▶ **[発信]**

【例外1】アメリカ本土・ハワイ・サイパンの場合

- **[✓]** ▶ **[「1」]** ▶ **相手の市外局番と電話番号を入力**  
▶ **[発信]**

【例外2】メキシコ・市内通話の場合

- **[✓]** ▶ **相手の電話番号を入力** ▶ **[発信]**

【例外3】メキシコ・市外通話の場合

- **[✓]** ▶ **[「01」]** ▶ **相手の市外局番と電話番号を入力** ▶ **[発信]**

### 渡航先で電話を受ける

#### 着信中に **[✓]** を右側にドラッグ

- 日本国内にいるときと同様の操作で、電話を受けることができます。(▶「取扱説明書」第3版P.77「電話を受ける」)
- 渡航先に電話がかかってきた場合は、いずれの国からの電話であっても日本からの国際転送となります。発信側には日本までの通話料がかかり、着信(IS06)側には着信料がかかります。

### 日本から渡航先のおなたへかけてもらう

#### あなたの電話番号 ▶ 発信ボタン

- 日本国内にいるときと同様に、電話番号をダイヤルして電話をかけてもらいます。



## 日本以外の国から渡航先のあなたへかけてもらう

### 発信者の滞在国の国際アクセス番号

▶「81」(日本の国番号) ▶ 最初の「0」を除いた  
あなたの電話番号 ▶ 発信ボタン

- 「発信者の滞在国の国際アクセス番号」は、滞在国にてご利用の電話会社により異なります。

### 連続通話時間／連続待受時間について

- 連続通話時間および連続待受時間は、国内と異なりますのでご注意ください。

連続通話時間	国内	約300分
	海外	約360分： アメリカ本土／メキシコ／サイパン／ 中国本土／ハワイ／韓国／台湾／ インドネシア／イスラエル／インド／ ベトナム／ニュージーランド／タイ／ マカオ／ペルー／バングラデシュ／ パミューダ諸島／バハマ／ベネズエラ ／香港
連続待受時間	国内	約200時間
	海外	約300時間：アメリカ本土／メキシコ／サイパン／ 中国本土 約320時間：ハワイ／韓国／台湾／インドネシア／ イスラエル／インド／ベトナム／ バングラデシュ／バハマ／香港 約380時間：ニュージーランド／タイ／マカオ／ ペルー／パミューダ諸島／ベネズエラ

- 連続通話時間・連続待受時間は、充電状態・気温などの使用環境・使用場所の電圧状態・機能の設定などによって半分以下になることもあります。
- 2011年10月時点の対象国を記載しています。

## FCC notice

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

### Note:

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help and for additional suggestions.

### Warning

The user is cautioned that changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the equipment.

### FCC RF exposure information

This model phone is a radio transmitter and receiver.

It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.

## 入力言語を切り替える

### 文字入力欄をロングタッチ ▶ [入力方法]

▶ [Androidキーボード] / [iWnn IME] /  
[DioPen韓/中IME]

- [DioPen韓/中IME]を表示するには、**[メニュー]** ▶ **[設定]** ▶ **[システム]** ▶ **[言語とキーボード]**で、[DioPen韓/中IME]に**[ ]**(チェック)を入れてください。お買い上げ時はチェックが入っていません。
- **[メニュー]** ▶ **[設定]** ▶ **[システム]** ▶ **[言語とキーボード]** ▶ [DioPen韓/中IME]で、DioPen韓/中IMEの詳細設定が行えます。
- DioPen韓/中IMEは、**[メニュー]** ▶ **[設定]** ▶ **[システム]** ▶ **[アプリケーションの管理]**で削除できますが、ISO6の電源を入れなおすと再インストールされます。

## Bluetooth® / 無線LAN(Wi-Fi®) についてのご注意

- au電話のBluetooth® 機能 / 無線LAN機能は、日本国内およびFCC規格に準拠し、認定を取得しています。一部の国 / 地域ではBluetooth® / 無線LAN機能の使用が制限されることがあります。海外でご利用になる場合は、その国 / 地域の法規制などの条件をご確認ください。

The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg. The tests are performed in positions and locations (e.g., at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model.

The SAR value for this model handset when tested for use at the ear is 1.146 W/kg and when worn on the body, as described in this user guide, is 1.307 W/kg.

### Body-worn operation

This phone was tested for typical body-worn operations with the back of the phone kept at a distance of 1 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1 cm separation distance between your body and the back of the phone. The use of belt clips, holsters and similar accessories should not contain metallic components.

The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.

The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of <http://www.fcc.gov/oet/ea/fccid/> after searching on FCC ID YJCCDDMPT10G.

Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the Cellular Telecommunications & Internet Association (CTIA) website at <http://www.phonedefacts.net>.

- ISO6本体(電池バックカバーを取り外した右上)に貼ってあるFCC IDシールは、はがさないでください。